



東陽病院
内科医師
鈴木健士

健康ウオッチング

29

横芝町のみなさんこんにちは。今回は狭心症の治療についてお話ししたいと思います。前回お話ししましたが、狭心症とは心臓に栄養を送っている血管(冠動脈)といいますが、細くなっている状態であり、発作が起きているときにはニトログリセリンという薬でその血管を上げ、治療することをお話ししました。しかし、ニトログリセリンの効果は一時的で一日中効いているわけではありません。ですからもつと効果の持続時間が長い薬で発作が起らないようにする治療が必要になります。これらの薬は、一般的には飲み薬と貼り薬があります。飲み薬は一日に1〜3回のもので、貼る薬は薄いテープのようなものに薬がしみこんでいて、それを貼ると皮膚から徐々に薬が吸収されて効果を発揮するものです。心臓の薬だからといって別に心臓の上の皮膚に貼る必要はありません。

狭心症の治療

狭心症のはなし その2

せんから、おなかでも胸でも結構です。ただし、はがれやすい場所などは避けた方がよいでしょう。

他の狭心症の治療薬としては、血液をかたまりにくくしてその流れをよくする薬があります。特に心筋梗塞を起こしたことがある方や、心臓の血管のバイパス手術をした方には、この薬が処方されることが多いと思います。これらの薬は血液の流れがよくなるのですが、その反面血液が止まりにくくなることがあり、出血を起すことのある方や手術を受ける方などでは注意が必要です。またこれらの薬の中のワーファリンという薬は、納豆やブロッコリーを食べると効果が弱くなってしまいますので注意してください。またたコレステロールを下げる薬は、狭心症の原因となる動脈硬化を予防する効果がありますから、ひろい意味での狭心症予防薬といえるでしょう。

狭心症の治療薬の主な副作用についてもお話ししましょう。まず冠動脈を上げる薬ですが、冠動脈だけでなく他の血管も広がるので血圧が一過性に下がる場合があります。このためにふらふらと立ちくらみがあったり、気分が悪くなる場合があります。また頭痛もよくみられる副作用の一つです。血液をかたまりにくくする薬には特有の副作用というのにはありませんが、吐き気などがみられることがあります。狭心症といわれてもそれだけで悲観する必要はありません。いかに心筋梗塞のような一大事にしないかが大切です。まずはよく診察、検査を受けて心臓の状態をしっかり診断してもらい、すぐに入院して治療しなければいけないのか、外来で飲み薬からはじめればよいのか、それを知ることが大切です。発作が起きないようにうまくコントロールできれば病気など気にせず快適に生活できるのですから。



生け花を長持ちさせる

「水揚げ」をしつかりと

切り花をできるだけ長く、新鮮な状態で長持ちさせるテクニックを紹介しよう。こうした技術を「水揚げ」といい、切り花の種類によって異なりますが、一般的な方法を三例挙げてみました。



まず、「水切り」です。ほとんどの切り花に使われている方法です。深めの容器に新鮮な水を入れ、水の中で茎の根元から二〜三センチのところを切って、根元をそろえて束にし、切り口を紙に包みます。お湯が沸いてから、紙に包んだまま茎元を一〜二分間煮沸します。変色してきたら、直ちに茎を水の中に入れます。この作業で、雑菌が入らないようにしたり、微生物を殺したりします。もちろん、茎元の水分を押し上げ、水揚げをよくします。

しおれかかった花は、逆さにして水をかけ、濡れた新聞紙で包みます。水の入ったバケツなどに丈の半分以上をつけて、涼しい場所に置きます。元の状態に戻ったら、水揚げをして新聞紙に包み、水を入れたバケツなどに一晚つけます。